

令和5年度 林業普及週間現地情報 (8/28～9/1)

森林管理課

松くい虫被害水際対策にかかる現地調査

8月30(水)～31日(木)

令和5年8月30日(水)から8月31日(木)にかけて、沖縄県八重山農林水産振興センター職員は、石垣市内の森林において、松くい虫被害(リュウキュウマツ材線虫病被害)水際対策にかかる現地調査を行った。

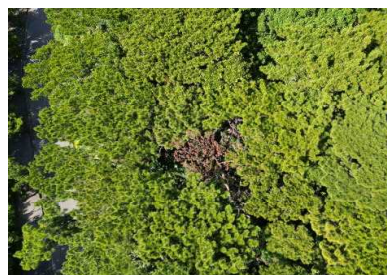
リュウキュウマツ材線虫病は、媒介者であるマツノマダラカミキリが、病原であるマツノザイセンチュウを媒介する伝染性の樹木病害である。八重山諸島においては、伐期を迎えた大径材となりうるリュウキュウマツが豊富に成林しており、当該伝染病の水際対策が極めて重要となっている。そのため、リュウキュウマツ材線虫病による赤枯れが顕著となる7月～9月頃に集中的な巡視を行うことで、早期発見・初期防除に繋がる。

今回、車道上からの調査のほか、展望台等の見晴らしのよい場所からの調査、ドローンによる調査も行い、可能な限り島内を網羅する形で調査を行った。その結果島内11箇所において、赤く枯死したリュウキュウマツを発見した。枯死木によっては、リュウキュウマツ材線虫病以外の原因で枯死したと見られるものも多くあったが、念の為全ての枯死木について、所有者の同意が取得出来次第、サンプルの採取・診断を行う予定である。

今後も八重山の豊富な森林資源保護の為、時期に関わらず定期的な調査を実施していくほか、調査ルートの変更の検討や関係機関への情報共有、協力体制の構築等を行っていく。



枯死木調査の様子



ドローン撮影による枯死木の写真

(報告者：八重山農林水産振興センター 小菅)